九州大学総合研究博物館研究報告第23号
Bulletin of the Kyushu University Museum
No.23, 2026, pp.15-31

実践報告
令和７年度 九州大学総合研究博物館 公開展示「博物の森で遊ぼう」

二宮　聡*・林　史子・赤司　妙・米元　史織

九州大学総合研究博物館：〒812-8581福岡市東区箱崎6-10-1
*ninomiya@museum.kyushu-u.ac.jp

要旨：本報告では令和７年（2025年）５～６月に行われた九州大学総合研究博物館第25回公開展示「博物の森で遊ぼう」の実践について報告する．本展示は2025年５～６月の２ヶ月にわたり，各週末に計10日間実施され，来館者数のべ5,788人となった．展示期間中には教員によるワークショップや館内・外のツアーなど，13種類のイベントを実施した．学生も展示運営に関わり，博物館での来館者とのやりとりが学びとなった．学生が主体となったイベントも行われた．地域団体のイベント連携を通じより広い層へ博物館の存在をアピールすることにつながった．

キーワード：大学博物館，ワークショッププログラム，地域協働

１．はじめに

1-1．九州大学総合研究博物館 公開展示

九州大学総合研究博物館（以下，当館）は，2000年の設置当初，十分な展示施設を有していなかったため，一般向けの大規模展示を学外の公共施設を借用して実施してきた．これらの展示は「公開展示」として位置づけられ，九州大学の各分野が長年にわたり蓄積してきた学術標本・資料を社会に開き，学術研究の成果とその基盤となる実物資料の価値を広く共有することを目的としていた．すなわち，公開展示は，大学における学術研究と社会とを結びつける重要な実践の場として位置づけられてきた．

その後，2018年に箱崎地区内に分散して保管されていた学術標本・資料が旧工学部本館に集約され，これを受けて2019年には，初めて学外施設ではなく旧工学部本館内において公開展示を実施するに至った．さらに，2025年度には公開展示が第25回を迎えること，2023年に旧工学部本館を含めた九州大学箱崎サテライトの近代建築群が国の登録有形文化財に登録されたことを記念し，再び旧工学部本館内で展示を企画した．当館は154万点の学術標本・資料を有し，学外施設での展示ではその一部しか紹介することができないが，旧工学部本館で展示を実施することにより，より多くの学術標本・資料を展示することが可能となり，標本・資料そのものの多様性と重層性を通して，学術研究の広がりと奥行きを示すことができる．本展示は，当館の所蔵資料の特質を最大限に活かし，学術標本・資料が未来の研究や知の創出へとつながる可能性を提示することを理念として企画した．

本稿は，その取り組みの経緯と内容について報告する実践報告論文である．

令和７年度はテーマを「博物の森で遊ぼう」と設定した．

直近では令和６年度「九大１万年史 －発掘された九州大学筑紫キャンパス内の遺跡－」（期間：2024年４月27日～６月16日／於：大野城市こころのふるさと館／来館者数：4320名），令和５年度「ふくおか大昆虫展 in ももち 世界の昆虫と九州大学の研究」（期間：2023年７月14日～８月27日／於：TNC 放送会館１階ホールエントランス イベントスペース／来場者数：15373名）を開催している．

1-2．福岡ミュージアムウィーク

当館は，福岡市が例年実施する市内の博物館・美術館などの周遊を促すイベント「福岡ミュージアムウィーク」へ参加館の一つとして参加している．

例年の参加では，ウィークの期間中，通常開館していない土日も開館し，平常時は一般公開していない開示室を公開，ワークショップや専門教員による解説ツアーの開催，市内博物館・美術館をめぐるスタンプラリーのスタンプ設置などで協力している．直近では2024年５月18日（土）～26日（日）に実施され，期間中の来館者数1364人となり，通常時より多数の市民が当館を訪れた．

福岡ミュージアムウィークの令和７年度の実施期間は令和７年５月17日（土）～５月25日（日）の９日間であった．今回の当館における公開展示では，この実施期間の一部に開催日程を合わせて実施した．複数の博物館・美術館が同時期に催しを行う同事業と連動することで，当館単独で展示を実施する場合と比べ，より多くの一般市民に公開展示の開催を周知できると考えたためである．これにより，来館の機会を広く提供し，展示を有効に活用してもらうことを目的とした．令和７年度の他の参加施設は福岡市博物館，福岡市美術館，福岡アジア美術館など公共や民間，大学など全16施設であった．

1-3．広報

1-3-1．ポスター・チラシの送付・掲示

近隣から全国の博物館など関連施設165施設へチラシとポスターを送付した．また，当館寄附者に対しても同様に送付を行った．近隣の小中学校・２校へ訪問を行い，直接教員へ事業の説明を行いチラシ・ポスターの校内掲示を依頼した．当館最寄りの福岡市東区役所でのポスター掲示及びチラシ配布も実施した（図１）．

1-3-2．内覧会の開催

本展示実施に先立って，メディア向けの内覧会を実施した．開示室などを担当教員とともに案内し，見所などを伝えた．内覧会での取材の様子が当日の TV ニュースとして放映された．

1-3-3．メディアへの取り上げ

新聞，テレビ局，雑誌，WEB メディアに情報が掲載さ

図１　チラシ（オモテ ウラ）

表１　メディア取り上げ一覧

取材日・放送日	放送局・出版社
4月8日	ARTNE
4月23日	誠文堂新光社
5月7日	NHK福岡
5月17日	RKB毎日放送
5月18日	RKB毎日放送
5月22日	ジモタイムズ（KBC）
5月24日	JCOM
5月26日	西日本新聞
5月26日	読売新聞
5月30日	読売新聞

れた．本展示開始前から開催中に８種のメディアに計10回取り上げられた（表１）．

２．第25回公開展示実施内容

本項では本展示全体の実施内容について詳述する．

2-1．概要（図２）

【開催日】令和７年５月17日・18日・24日・25日・31日・６月１日・７日・８日・14日・15日［土日開放　計10日間］

【会場】九州大学総合研究博物館（箱崎サテライト 旧工学部本館１階から４階）

【展示内容】常設展示室の土日開放に加え，通常では公開されていない以下の開示室も来館者が観覧できるよう公開した．

４階壁画の会議室 ／ 工学部列品室
工学系資料開示室 ／ 動物骨格標本開示室
剥製標本開示室 ／ 人骨資料開示室
植物資料開示室 ／ 元寇防塁廊下展示
化石閲覧開示室 ／ 昆虫標本開示室
高壮吉鉱物標本開示室

通常時は展示していない資料や標本についても廊下の

常設展示室（1）

常設展示室（2）

1F 廊下展示

2F 廊下 化石

図２　展示の様子

高壮吉鉱物標本開示室

工学部列品室

剥製標本開示室

元寇防塁パネル

動物骨格標本開示室

4F 会議室

工学系資料開示室

蚕の生体展示

図２　展示の様子

双眼実体顕微鏡による鉱物の観察

3D データ

図２　展示の様子

スペースを活用し展示を行った．これらの一部については，実際に触れることができるほか，専用器具を用いた観察体験を可能とし（図２　展示の様子：双眼実体顕微鏡による鉱物の観察），来館者が資料や標本をより主体的に理解できるよう工夫した．

３Ｆ廊下：SP レコード関連資料 ／ 鉱物標本６点 ／ 蚕・ゲンゴロウの生体展示

２Ｆ廊下：昆虫標本 ／ 化石標本 ／ 鉱物標本・観察器具 ／ 植物標本（ステビア）と関連資料

2-2．スタンプラリー（図３）

館内各所には平常時から展示にまつわるスタンプを設置している．本展示中にスタンプを全て集めた来館者には，本展示のチラシ・ポスタービジュアルで作成したポストカードをプレゼントした．

2-3．スタッフ体制（図４）

受付を１Ｆ入口へ設置し，来館者数の把握タイムスケジュールなどの案内資料，来館記念ステッカー，スタンプラリー用紙の配布を行った．

本学学生が各開示室での解説員兼監視員を務めたほか，各イベントでスタッフを担った．学芸員科目等を履修している学生もおり，来館者への対応などを通じて実践的な学びの場として機能することを目指した．参加学生数はのべ265人・日，各日平均25名が参加した．１人当たりの平均参加日数は５日間であった．参加学生の所属は，理学部，共創学部，農学部，法学部，工学部，医学部，文学部，統合新領域学府など，多岐にわたっており，分野横断的な学生参加の機会となった．

３．各イベント実施概要

本展示では期間中の全日でワークショップやギャラリーツアーなどのイベントを実施した．

本館では展示が，標本や資料の鑑賞・閲覧だけにとどまらず，関連する各種体験と紐づいた学びとして来館者へ提供されるため，過去の展示活動においても実践して

スタンプ設置場所

景品交換

図３　スタンプラリー

受付の様子

来館者特典ステッカー

学生スタッフ：ツアー

学生スタッフ：ワークショップ

学生スタッフ：来館者向け解説（１）

学生スタッフ：来館者向け解説（２）

図４　スタッフ体制

きた（吉田ほか2024，吉田ほか2025）．またイベントを通じて，通常の鑑賞・閲覧と異なる体験がどのように来館者の博物館体験に影響するのかも実践を通じて考察してきた（藤野ほか2012）．

本展示内でも，自館によるイベント13種，館外部との連携イベント２種を実施した（図５）．

以下に実施したイベントの詳細を報告する．

3-1．自館によるイベント

１）丸山先生の昆虫こども相談（図６）

・開催日時：

（１）５月17日（土）　11：00～12：30

（２）５月24日（土）　13：00～15：00

・会場：（１）第１会議室／（２）大講義室

・担当：丸山 宗利 准教授

・内容：担当教員からの自身の研究内容などのプレゼンテーションを行い，参加者からの昆虫についての疑問について質問を受け付ける．参加者自身が育てている

イベントスケジュール		5/17（土）	5/18（日）	5/24（土）	5/25（日）	5/31（土）	6/1（日）	6/7（土）	6/8（日）	6/14（土）	6/15（日）
丸山先生の昆虫子ども相談（時間内随時受付）	② 3F 第一会議室	11:00～12:30		13:00～15:00							
鉱山サイエンスツアー（60 分）	① 3F 常設展示室前		10:00～							11:00～	11:00～
触って考える、骨のカタチ（60 分）	① 3F 常設展示室前			11:00～			11:00～	11:00～			
植物と什器をめぐるツアー（60 分）	1F 受付前					11:00～					13:00～
名誉プロフェッサー前田の化石講座（90 分）	① 3F 常設展示室前	14:30～	10:30～ 13:00～ 14:30～	10:30～ 13:00～ 14:30～	10:30～ 13:00～ 14:30～	10:30～ 13:00～ 14:30～	10:30～ 13:00～ 14:30～	10:30～ 13:00～ 14:30～	10:30～ 13:00～ 14:30～		
鉱物標本作成ワークショップ（随時受付）	③ 2F 廊下	全日程開催・各日 30 名限定									
能古会講演会	④ 1F 大講義室					15:00～16:00					
芸工特別展示 朗読パフォーマンス	1F 146 室										11:00～ 14:00～
標本 de 表現 II「風味」編（各日 15 名限定）	② 3F 第一会議室									11:00～15:00（最終受付 14:00）	11:00～15:00（最終受付 14:00）
SP レコード上演会	② 3F 第一会議室									15:00～	15:00～
現役九大生によるアンモナイトーク	2F 化石閲覧開示室									14:00～	14:00～

※予定は変わることがございます。ご了承ください。

図５　来館者へ配布したタイムスケジュール

図６　丸山先生の昆虫こども相談

昆虫の実物が持ち込まれ，種類の同定やその生態などが伝えられる場面もあった．

２）発掘担当者とめぐる！箱崎キャンパス跡地遺跡ツアー（図７）

・開催日時：

（１）５月17日（土）14：00～

（２）５月31日（土）14：00～

（３）６月14日（土）　13：00～

（４）６月15日（日）　10：00～

・会場：旧工学部本館周辺（箱崎サテライト内）

・担当：福永 将大 助教

・内容：旧工学部本館周辺を歩きながら，箱崎地区の歴史や，キャンパス移転に伴った埋蔵文化財調査時のエピソード，その後発掘資料の研究の成果などを実際に調査実務に従事した担当教員より参加者に伝えた．

図７　発掘担当者とめぐる！ 箱崎キャンパス跡地遺跡ツアー

図８　鉱山サイエンスツアー

図９　カタチを閉じ込める！ 樹脂標本づくり

・申込者数（事前申込制）：
（１）５月17日（土）申込18名
（２）５月17日（土）申込10名
（３）５月17日（土）申込18名
（４）６月15日（日）申込19名

３）鉱山サイエンスツアー（図８）

・開催日時：（１）５月18日（日）　10：00～
（２）６月14日（土）　11：00～
（３）６月15日（日）　11：00～
・会場：常設展示室，列品室（１）（２），工学系資料開示室
・担当：中西 哲也 准教授
・内容：鉱山に関連する展示品をツアーで観覧しつつ，自然環境で鉱物ができるまでの過程，個々の鉱物の特色，日本における鉱物資源開発の歴史や現在の状況などを担当教員から伝える．
・参加申し込み不要，当日自由参加退出とした．

４）カタチを閉じ込める！樹脂標本づくり（図９）

・開催日時：（１）５月18日（日）　13：00～
（２）６月１日（日）　10：00～

図10　触って考える，骨のカタチ

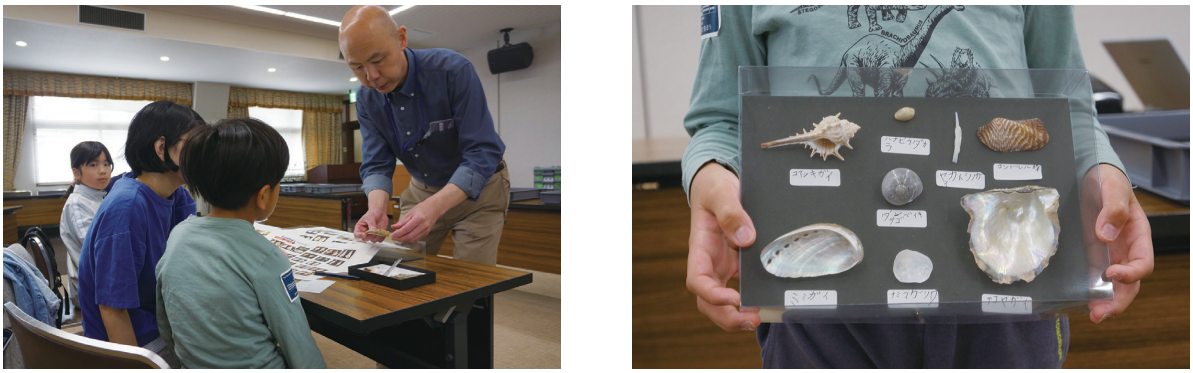

図11　貝の標本箱をつくろう

（３）６月１日（日）　13：00～
（４）６月８日（日）　13：00～

・会場：第１会議室，10番講義室（ともに旧工学部本館３階）
・担当：加藤 萌 助教
・内容：棘皮動物の標本などを主な材料として，それらを UV レジンに埋め込む樹脂標本を作成した．樹脂標本作成と合わせて，使用したウニやヒトデなど海岸で採取された標本について，どういった生き物かといった特徴や，研究をする上で興味深い点などを，レクチャーを通して伝えた．
・申込者数（事前申込制）：
（１）５月18日（日）申込23名
（２）６月１日（日）10：00　申込22名
（３）６月１日（日）13：00　申込22名
（４）６月８日（日）申込22名

５）触って考える，骨のカタチ（図10）

・開催日時：５月24日（土）　11：00～
６月１日（日）　11：00～
６月７日（土）　11：00～
・会場：動物骨格標本開示室，人骨資料開示室
・担当：米元 史織 准教授
・内容：動物骨格標本開示室，人骨資料開示室，両室に展示している骨の標本について担当教員の解説を受けながらのツアー．動物骨格標本開示室では実物の動物骨に触れてみる体験を行った．人骨資料開示室では実物の標本を見ながら，３D データより作られたレプリカに触れながら，研究で明らかになった成果などの理解を深めた．
・参加申し込み不要，当日自由参加退出とした．

６）貝の標本箱をつくろう（図11）

・開催日時：（１）５月25日（日）　11：00～
（２）６月７日（土）　13：00～
（３）６月８日（日）　13：00～
・会場：第１会議室（旧工学部本館３階）
・担当：伊藤 泰弘 教授
・内容：用意した複数種の貝の標本から参加者各自が選び，標本箱に敷く台紙にレイアウトし固定する．参加者に配布された，準備された標本の写真つき一覧を参照し，色・形などの特徴から貝の種類を同定し，ラベ

図12　専門家と登録有形文化財を巡ろう！

ルに和名・学名を記載し添付する．台紙ごと箱に納めて標本箱として完成．

・申込者数（事前申込制）：
（1）５月25日（日）申込20名
（2）６月７日（土）申込16名
（3）６月８日（日）申込17名

7）専門家と登録有形文化財を巡ろう！（図12）

・開催日時：（1）５月25日（日）　11：00～
（2）５月25日（日）　14：00～
・担当：堀 賀貴 館長
・内容：登録有形文化財となった「旧工学部本館」の内外を巡るツアー．建物の意匠や設計者について，建設時の背景などを盛り込んだ内容を要所で伝えながら歩く．
・申込者数（事前申込制）：
（1）５月25日（日）11：00～　申込20名
（2）５月25日（日）14：00～　申込16名

8）植物と什器をめぐるツアー（図13）

・開催日時：５月31日（土）　11：00～
６月15日（日）　13：00～
・担当者：三島 美佐子 教授
・場所：箱崎サテライト，旧工学部本館館内
・内容：箱崎サテライト内に植えられている植物や，収蔵されている植物標本についてツアーを行い説明する．館内で使用している歴史的什器についても由来や特徴について解説する．
・当日自由参加・退出可能な参加方式

9）名誉プロフェッサー前田の化石講座（図14）

・開催日時：５月17日（土）　※14：30～のみ
《下記日程は１日３回開催　10：30～/13：00～/14：30～》
５月18日（日）／５月24日（土）／５月25日（日）／５月31日（土）／６月１日（日）／６月７日（土）／６月８日（日）
・担当：前田 晴良 専門研究員
・内容：館内に所蔵されているアンモナイトなどの化石標本について，その現地での採集に携わった専門研究員（元本館教員）による解説を交えたツアー．アンモナイト以外にも恐竜の化石などについても解説を加え，適宜参加者からの質問に答える．
・当日自由参加・退出可能な参加方式

図13　植物と什器をめぐるツアー

図14　名誉プロフェッサー前田の化石講座

図15　鉱物標本作成ワークショップ

図16　現役九大生によるアンモナイトトーク

10）鉱物標本作成ワークショップ（図15）

・開催日時：公開展示開催日全日

・会場：高壮吉標本開示室周辺廊下

・担当：上原 誠一郎 専門研究員，福岡石の会（岡田 敏朗氏，行則 功氏，濱崎 和博氏，久保園 達也氏，中武 俊郎氏）

・内容：オリジナルの台紙に各種鉱物標本の小片を貼り付け「鉱物コレクション」を作成する．スタッフより参加者へ，使用する各種鉱物について特徴などを解説しながら制作を進める．

・参加者数：各日30名（整理券配布ののち整理番号順に体験する）

11）現役九大生によるアンモナイトトーク（図16）

・日時：（１）６月14日（土）　14：00～
　　（２）６月15日（日）　14：00～

・会場：化石閲覧開示室（旧工学部本館２階）

・担当：理学府地球惑星科学地球惑星博物学所属の大学院生

・内容：アンモナイト化石を専門に研究している現役九大大学院生が，実際のフィールド調査の体験談や自身の研究成果も交えて，アンモナイトの奥深い世界を紹介する．

・当日自由参加・退出可能な参加方式

12）標本 de 表現 II「風味」編（図17）

・日時：６月14日（土）・６月15日（日）　11：00-15：00（開催時間中随時受付）

・会場：第１会議室（旧工学部本館３階）および館内全域

・担当：統合新領域学府ユーザー感性スタディーズ専攻学生

・内容：選んだ標本から得たインスピレーションをもとに，スパイスを調合し参加者独自の「風味」をつくる．スパイスはクッキーにまぶすことで持ち帰り，楽しめるようにした．クッキーを持ち帰るパッケージをワークシートにし，「どのような標本を選んだか」「なぜその標本を選んだか」「どのような風味にしようと思ったか」などを書き込めるようにした．

・参加者数：（１）６月14日（土）20名
　　（２）６月15日（日）20名

13）SP レコード上演会（図18）

・日時：（１）６月14日（土）　15：00～
　　（２）６月15日（日）　15：00～

・会場：第１会議室（旧工学部本館３階）

・担当：大久保 真利子 専門研究員

・内容：本館収蔵の蓄音機と SP レコードで，近代日本の「音」を実際に聴く．九大博物館が所蔵する SP レコードコレクション約４万枚のなかから，当館専門家が音源を選定．博多節，長唄といった福岡ゆかりの録

図17　標本 de 表現 II「風味」編

図18　SP レコード上演会

音内容に合わせて三味線の実演も行った．

・当日自由参加・退出可能な参加方式

3-2．外部主催イベント

外部主体の主催による関連イベントも期間内に実施され，連携を図った．以下にそれらのイベント実施内容を紹介する．

外部主催イベント１）カリーナ・ニマーファル≪非同時的なモノたち：帝国と環境≫展（図19）

・日時：５月17日（土）～６月15日（日）の土・日曜日（全10日間）10：00～16：00

・会場：旧工学部本館１階146室

・内容：アーティスト カリーナ・ニマーファルによるインスタレーション展示．林業，生物多様性，そして第二次世界大戦前後の日本の木材貿易の歴史に関する大学コレクションを出発点として，“カフェのような読書室”を出現させるアート・インターベンション（芸術の介入）（科学研究費助成事業　基盤研究（C）「大学博物館におけるアート・インターベンションに関する理論調査と展示実践」（課題番号：24K03582 / 研究代表者：結城円　九州大学）として実施された）．

外部主催イベント２）第47回箱崎縁市ハコぽっぽ（箱崎商店連合会主催）（図20）

・日時：５月25日（日）11：00～16：00

・会場：箱崎サテライト屋外

カリーナ・ニマーファル≪非同時的なモノたち：帝国と環境≫展

公開日：2025.05.21

九州大学総合研究博物館の公開展示「博物の森で遊ぼう」内で、芸術工学部特別展示として、「カリーナ・ニマーファル　≪非同時的なモノたち：帝国と環境≫」展を開催中です。

- **会期**：2025年5月17日（土）～6月15日（日）の土・日曜日（全10日間）10:00～16:00
- **会場**：九州大学箱崎サテライト（旧工学部本館1階146室）
- **入場料**：無料
- **主催**：科学研究費助成事業　基盤研究（C）「大学博物館におけるアート・インターベンションに関する理論調査と展示実践」（課題番号：24K03582 / 研究代表者：結城円　九州大学）
- **協力**：九州大学総合研究博物館／九州大学大学院芸術工学研究院／オーストリア連邦芸術・文化・公務・スポーツ省／遊花遊月

図19　カリーナ・ニマーファル≪非同時的なモノたち：帝国と環境≫展 開催告知

図20　第47回箱崎縁市ハコぽっぽ　左：チラシ　右：会場の様子

・内容：箱崎地区に店舗を構える地元飲食店の屋台出展，ミニステージを設置しての音楽演奏などのライブパフォーマンス．

・「第47回箱崎縁市ハコぽっぽ」開催日の来館者数は1300名となっており，本展示期間中の土日１日の平均来館者数579名の２倍以上の来館者となった．

4．アンケート

来館者へ行ったアンケートを概観する．アンケートは入館時に配布し，退館の際に来館者へ記載してもらった．10日間での総回収数は727件である．

4-1．年齢層

来館者を年代別に見ると，最も多いのは50代（17%）となった．特徴的なのは小学生（15%）が中学生（３%）や高校生（４%）に比べ多いことである（図21）．

4-2．情報源

本展示の開催を知った情報源で最も多いのは「友人・

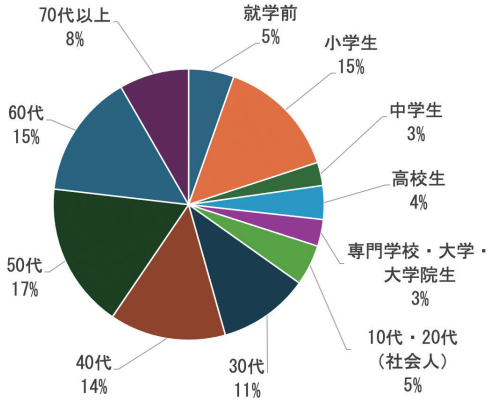

図21　アンケート結果 - 年齢層

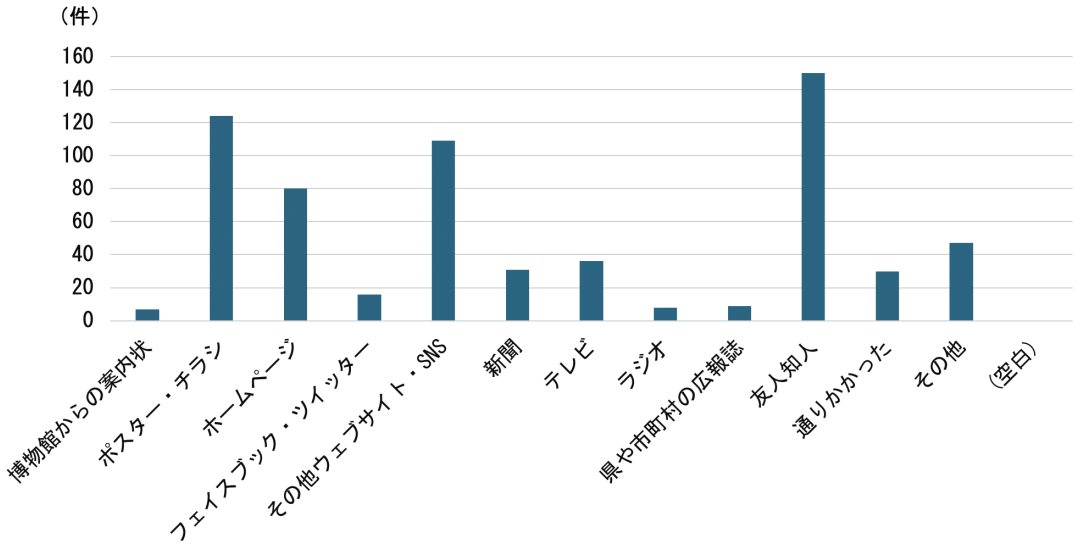

図22　アンケート結果 - 公開展示を知った情報源

知人」（150件），ついで「ポスター・チラシ」（124件），「その他ウェブサイト・SNS」（109件）となった（本回答は複数回答可）（図22）．

4-3．住まい

来館者の住まいで１番多いのは福岡市内（62%）である（図23）．

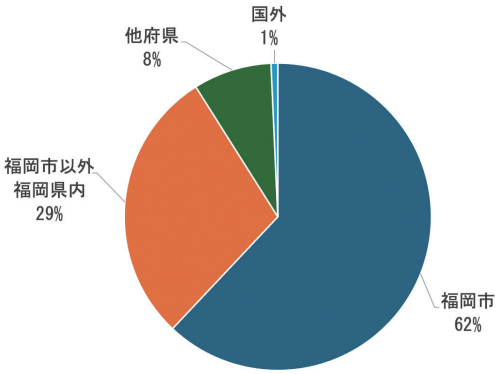

図23　アンケート結果 - 来館者の住まい

4-4．自由記述１）印象に残ったもの

「印象に残ったものはありましたか？あったら教えてください」という自由記述欄への記入は627件あった．最も言及が多かったのは鉱物・鉱石について228件．ついで人骨・骨格などについて189件，昆虫について150件，アンモナイト・化石について137件と続く．

いくつか以下に回答を記載する．

「鉱物の説明を詳しく聞けてよかったです．実物もいただけて子供も大満足でした！！」（30代，および就学前）

「動物のほねを自分とくらべられたもの」（小学生）

「甲虫がキレイでした．小さい虫たちの標本もどうやって作ったんだろうと印象に残りました．」（40代）

「アンモナイトークで学生の方のお話を聞いて，アンモナイトや化石のことについてくわしく知れました．」（小学生）

4-5．自由記述２）感想・ご意見

「感想・ご意見をお願いします」という自由記述欄へは557件の記入があった．来館の体験の感想としては「面白い（興味深い，すごい，不思議）」（160件）といった表現や「楽しい」（158件）といった記述が多かった．再来場の意向を表す「また来たい」（128件）に関連する記述も多く見られた．

標本への言及は「量」（98件），「貴重さ」（50件），「多様さ」（49件）が多かった．

いくつか以下に回答を記載する．

「正直あまり興味のない状態での参加でした．ですがいざ見てみるとおもしろい物や今後なかなか見れないであろう物ばかりでとても面白く，時間がいくらあっても足りない！といったような満足感でした．」（高校生）

「アンモナイトのおおきいやつがすごいと思いました．とくに，動物がリアルにおかれていたところや，私がしらなかった多くのすごい，きれい，おどろき，楽しいがいっぱいありました！！今日は楽しかったですー！ありがとうございました．」（小学生）

「学校で教えてもらったことがたくさんあって，これはこうだったんだと知ることが出来て，勉強のモチベにもなって楽しかったです．ぜひまた来たいと思いました！！」（高校生）

「時間がぜんぜんたりませんでした！！リニューアル後また来ます！！」（10代・20代 社会人）

「とにかく種類の多さに驚いた．岩石，他，昆虫等々見に来てヨカッタ !!」（70代以上）

５．現場での気づきと考察

5-1．展示について

第25回公開展示の中で行われたすべての企画は，学術標本・資料の重要性と，それを用いて研究してきた九州大学の歩みを伝えるとともに，これらの学術標本・資料は新たな研究が生まれる可能性を秘めたものであることを伝えることを目的としたものであった．旧工学部本館で実施することで，博物館の存在を広く周知し，当館の特徴である膨大かつ多岐にわたる学術標本・資料の魅力を，来館者に楽しみながら体感してもらうことを目指した．前述したアンケート結果にも展示されている標本の「量」「貴重さ」「多様さ」への感想が多く見られた．

来館者として小学生が最も多く（図21），この点に関しては近隣の小中学校・２校へのポスター・チラシの配布などが一定の効果を上げた可能性が考えられる．あわ

せて，近年推進されている STEAM 教育との親和性も，来館者層に影響を与えた要因の一つであると考えられる．本展示では，自然史・人文科学・工学など複数分野にまたがる学術標本・資料を通じて，観察・比較・仮説といった科学的思考のプロセスを体感できる構成となっており，教科横断的な学びを重視する STEAM 教育の理念と合致していたといえる．

さらに，大学博物館の強みとして，多くの現役九大生や退職教員が展示解説を担当し，来館者と直接対話しながら標本・資料の魅力を丁寧に伝えた点も高く評価された．来館者アンケートにおいても，標本に触れながら学ぶ体験や，研究の第一人者と直接言葉を交わす機会が極めて有意義であったとの意見が多く寄せられており，知的好奇心を喚起する豊かな学習機会を提供できたと考えられる．

5-2．各種イベント・企画について

要事前参加申込としたイベント・ワークショップでは受付開始早々に定員に達し，追加回を設けることになった．追加回を設けたのは「貝の標本箱をつくろう」「カタチを閉じ込める！樹脂標本づくり」「発掘担当者とめぐる！箱崎キャンパス跡地遺跡ツアー」の３イベント．それぞれ１回ずつ追加し申し込みを受け付けた．「鉱物標本作成ワークショップ」は本展示中の各日，毎朝の開館時から参加希望者へ整理券配布を行っており，各日の定員30組分が午前中には全数配布終了となった．これらの申し込み状況から博物館での体験機会が強く希求されていることが伺える．

また，解説を担当した学生にとっても，本展示は充実した学修経験となったと言える．展示が始まった当初は来館者への声かけに躊躇する様子が見られた学生も，展示期間後半には積極的に解説を行うようになり，来館者との対話を通じた成長が確認されたことから，本展示は高い教育的効果を有していたと評価できる．

館内に設けたフォトスポットなどで，ハッシュタグ（#）を用いての SNS 投稿を促した（図24）．実際に推奨するハッシュタグを用いた，来館者による投稿が SNS 上で見られた．当館自体の SNS でも前もってハッシュタグ付き投稿を取り入れ，イベントへ向けての盛り上げを醸成することで，来館者のハッシュタグ付きの投稿もより活発になったものと予想されるので，次回以降同様の企画では事前の導入を検討したい．

5-3．個別のニーズ

個別のケースで見られたニーズとしてバリアフリーの対応や駐車場の整備が課題と思われる．遠方より来館予定の高齢の車椅子利用者より事前に当館へのアクセスについて問い合わせがあった．当館へのアクセスは，来館者向けの駐車場が未整備のため，基本として公共交通機関での来場を案内している．車での来館希望であったが案内できる駐車場が近隣民間のコインパーキングに限られ，一部の来館者には様々な障壁があることが明らかとなった．常設展示室は入り口が階段であるなど館内にも不便な点が多い．今後も多様な来館者を受け入れる施設として，バリアフリーに対応した環境整備が求められる．

フォトスポット

#（ハッシュタグ）を用いての投稿を促す掲示

図24　フォトスポットと SNS 投稿の促進掲示

6．おわりに

本報告では，令和７年度に実施した九州大学総合研究博物館第25回公開展示「博物の森で遊ぼう」について，その企画背景，実施内容，来館者の反応，ならびに現場で得られた知見を報告した．本展示は，旧工学部本館という登録有形文化財を会場とし，当館が所蔵する多様かつ膨大な学術標本・資料を活用することで，大学博物館ならではの展示体験を来館者に提供することを目指したものである．

会期中によせられたアンケートの結果からは，展示標本の「量」「多様さ」「貴重さ」に対する高い評価が確認されるとともに，研究者や学生による対話的な解説，実物に触れる体験型企画が来館者の理解や満足度を高めていたことが明らかとなった．また，学生が展示運営や解説に主体的に関わることにより，博物館活動が教育の場としても有効に機能していた点は，本展示の重要な成果である．こうした点は，教育・研究機能を併せ持つ大学博物館ならではの特質を示すものであり，大学と社会をつなぐ接点としてその有用性を具体的に示したものといえる．

一方で，バリアフリー対応や来館者向け駐車場の未整備など，施設面での課題も浮き彫りとなった．今後は，多様な来館者のニーズに応える環境整備を進めるとともに，地域イベントや外部主体との連携をさらに深化させることで，大学博物館の社会的役割を一層強化していく必要がある．

本展示で得られた知見を今後の公開展示や教育普及活動に活かし，学術標本・資料を核とした知の循環を社会へと広げていくことが，大学博物館に求められる実践であると考え，今後も同様の企画を実践していきたい．

謝辞

本公開展示を開催するにあたり，日頃より本館での展示設営にご協力いただいている有限会社ケイ・ネットワーク様，アルバイトとして連日イベントを盛り上げてくださった九州大学の学生たちへ謝意を表します．

参考文献

藤野理香・田中あかり・坂倉真衣・三島美佐子，2012．実践報告：骨標本資料に対するネガティブな先入観の乗り越え ── ワークショップ・プログラム「九大博物館を探検　骨から分かることをおしゃべりしながら考えよう！」の事例から ──，九州大学総合研究博物館研究報告10，51-62，九州大学総合研究博物館

吉田明世・福永将大・米元史織，2024．実践報告：元寇防塁研究と九州大学『ギャラリートーク ── 発掘担当者とみる元寇防塁展 ──』，九州大学総合研究博物館研究報告21，131-144，九州大学総合研究博物館．

吉田明世・米元史織・黒木鳳弥，2025．実践報告：企画展示「弥生時代の人々 ── 九州大学の自然人類学研究 ──」関連イベント『体験！ 3Dスキャナーで骨をスキャンしよう！』，九州大学総合研究博物館研究報告22，117-128九州大学総合研究博物館．

Received Dec. 27, 2025; accepted Jan. 7, 2026

Practical Report: The 25th Kyushu University Museum public exhibition "Let's Play in the Hakubutsu-No-Mori"

Satoshi NINOMIYA, Fumiko HAYASHI, Tae AKASHI, Shiori YONEMOTO

The Kyushu University Museum, Hakozaki 6-10-1, Higashi-ku, Fukuoka, 812-8581 Japan

This report documents the implementation of the 25th public exhibition, "Let's Play in the Hakubutsu-No-Mori" held at the Kyushu University Museum from May to June 2025. The exhibition was conducted over a two-month period on ten weekend days and recorded total of 5,788 visitors. During the exhibition period, thirteen types of events were held, including workshops conducted by faculty members and guided tours inside and outside the museum facilities. Students participated in the operation of the exhibition and were involved in interactions with visitors. In addition, events planned and implemented primarily by students were carried out. Furthermore, collaboration with local community organizations through related events was undertaken, contributing to outreach to more people.

Key words: university museum, workshop program, community collaboration